

平成30年度 北海道小学校長会 第5回理事研修会

会長就任挨拶 2019.02.22



ただ今、会長に選考いただきました大石でございます。

本間会長からバトンを引き継ぐことになり、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。会長に就任するにあたり、一言、挨拶申し上げます。

北海道小学校長会は、来年度、昭和32年の発足から62年目を迎える伝統ある組織であります。「正論を以って正道を歩む」という理念の下、全道の会員一人一人が北海道教育の向上のために、真摯な取組が進められてきました。その伝統を大切に、皆様と力を合わせながら新しいページを開いてまいりたいと考えております。

さて今日、学校においては、学力・体力向上の課題への対応、いじめ・不登校などの生徒指導上の問題への対応、特別支援教育の充実、貧困・虐待への対応、保護者へのきめ細かな対応をはじめ、複雑化かつ多様な課題に対応することが求められております。

さらには、教育の質の向上と学校における働き方改革の推進、教員の確保や人材育成、教職員定数の改善、服務規律の徹底、胆振東部地震等の教訓を生かした学校安全教育の実施なども、対応しなければならない喫緊の課題となっております。

一方、各学校では、あと1年に迫った新学習指導要領の全面実施に向けて、社会に開かれた教育課程の実現、指導体制の整備、校内研修の充実等に全力で取り組んでいます。子どもたちには、変化の激しい時代を生きていくために、生きて働く知識・技能、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性などが求められています。各学校においては、校長のリーダーシップの下、このような資質・能力を育成するために、教師一人一人が授業研究を通して研鑽を積み重ね、主体的・対話的で深い学びの視点から、不断の授業改善に努めています。

今後も、私たち校長は、このような教育課題や教育改革の推進に立ち向かっていかなければなりません。時代の変革期を迎えている今、これまで以上に、校長の役割と指導性が問われます。未来を見据え、児童の実態や地域の特性を十分に考慮し、教育目標とその重点を定め、グラウンドデザインを明確に示すことが必要です。さらに、新学習指

導要領の趣旨を十分に踏まえ、教育活動を計画・実施し、評価・改善を図っていくことは、校長の重要な役割です。一人一人の校長が、その役割と指導性を十分に発揮する、そのことは、小学校長の職能向上と本道教育の振興を図ることを目的とする北海道小学校長会の存在意義そのものとも言えます。

来年度は、第62回北海道小学校長会教育研究胆振・苫小牧大会が開催されます。校長の職能向上と本道教育の質の向上を目指して、研鑽を積んでいく大きな機会となります。今年度の全連小北海道大会函館大会におきましては、大会の運営や分科会の討議の内容について、全国の校長先生から高い評価をいただきました。私たちは、誇りと自信をもちながら、更に、北海道の子どもたちのために、研究を深めていきたいものです。特に、分科会については、これまで、参観型から参加型、近年は参画型の充実を目指して、工夫を重ねてまいりました。今後、更なる改善を目指すことが、日常の学校経営に結びつくものと考えております。

本日出席の理事の皆様は、それぞれ各地区のリーダーとしてその重責を担われてきたことと思います。地域による実情は様々かと思いますが、各地区校長会が道小という組織を通して、今後も、一致していくことが大切であると考えております。それが全国連合小学校長会の活動の充実にもつながり、大きな力になっていくと信じております。

これからも、この道小という組織を活性化させるとともに、北海道中学校長会、北海道PTA連合会、北海道教育委員会、民間教育団体等の教育関係諸団体などとも連携を図りながら、「チーム北海道」として北海道教育の充実に努めて参りたいと考えております。

今後も、各地区校長会の皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

次年度道小役員を選考について

会長並びに事務局長の選考については、本会の会則第3章第6条の規定により、理事研修会で決定する。

札幌1名・各ブロック1名と、事務局1名の計7名で選考委員会を構成し、選考した結果、

道小会長に 大石 幸志 事務局長(札幌市 豊平小学校)

事務局長に 神谷 敦 会計理事(札幌市 篠路小学校) が推薦され、理事研修会で選任された。